

長崎市長 伊藤 一長 様

(仮称)長崎市立図書館整備運営事業に係る提案審査の結果、優秀提案の選定を行いましたので、次のとおり講評のうえ、報告します。

(仮称)長崎市立図書館整備運営事業 P F I 審査会

会 長	高 山	正 也
副 会 長	深 浦	厚 之
委 員	宮 原	和 明
委 員	武 田	浩
委 員	浦 川	一 孝

(仮称)長崎市立図書館整備運営事業

提 案 審 査 報 告

平成 1 7 年 6 月

(仮称)長崎市立図書館整備運営事業 P F I 審査会

第1 事業の概要

1 事業名称

(仮称)長崎市立図書館整備運営事業(以下「本事業」という。)

2 事業概要

本事業を行うことと決定された事業者(以下「選定事業者」という。)は、その提案を基に設計・建設した建物等を用いて、「長崎市立図書館整備運営事業に関する契約書」(以下「事業契約書」という。)により示される内容の業務を行う。

具体的な業務の範囲は、次のとおりである。選定事業者が新たに図書館、コミュニティ施設、救護所メモリアルコーナー、軽食・休憩コーナー(以下「図書館等施設」という。)を設計・建設し、竣工後施設を市に引渡しの上、これら施設の維持管理業務並びに運営業務の一部を遂行することを事業の範囲とする。選定事業者の業務範囲を超える運営業務については、従来通り長崎市(以下「市」という。)が行う。

1) 設計・建設業務

設計業務

建設・施工監理業務

2) 施設維持管理業務

建築物保守管理業務

建築設備保守管理業務

植栽・外構保守管理業務

清掃業務

環境衛生管理業務

駐車場管理業務

警備業務

3) 図書館運営業務

開館準備業務の一部

総括業務の一部

サービスの業務の一部

情報資料整備業務の一部

図書館ネットワーク業務の一部

公民館等図書室業務の一部

図書館情報システム業務

第2 審査の概要

1 審査会の設置

市が実施する本事業に係るPFIの推進に関し、実施方針及び特定事業の選定に関する事、事業者募集要項及び事業者選定基準に関する事、事業者及び事業提案書の審査に関する事、このほか必要な事項を調査審議するため、長崎市PFI基本指針に基づき、(仮称)長崎市立図書館整備運営事業PFI審査会(以下「審査会」という。)を設置した。

2 審査の体制

本事業における落札者の選定において、公正性及び透明性を確保することを目的に、以下の学識経験者等の外部委員5名で構成した。

会長 高山正也(慶應義塾大学文学部教授)

副会長 深浦厚之(長崎大学経済学部教授)

委員 宮原和明(長崎総合科学大学工学部教授、長崎市図書館建設基本計画検討協議会元委員)

武田浩(日本政策投資銀行九州支店企画調査課調査役)

浦川一孝(長崎市図書館建設基本計画検討協議会元委員、興善町自治会会長)

3 審査の方法

落札者の決定については、民間の提案を幅広く取り入れるため、総合評価一般競争入札方式を採用した。

4 審査の手順

(1) 参加資格審査

市は、参加資格確認申請書等により、応募者が入札説明書に記載された参加資格要件等を満たしていることを確認する。資格不備の場合は失格とする。

(2) 提案審査

ア 入札価格の確認

市は、入札において、応募者の入札価格(事業期間を通じたサービス料の総額)が、市の設定する予定価格の範囲内であることを確認する。入札価格が予定価格を超える場合は失格とする。

イ 基礎審査

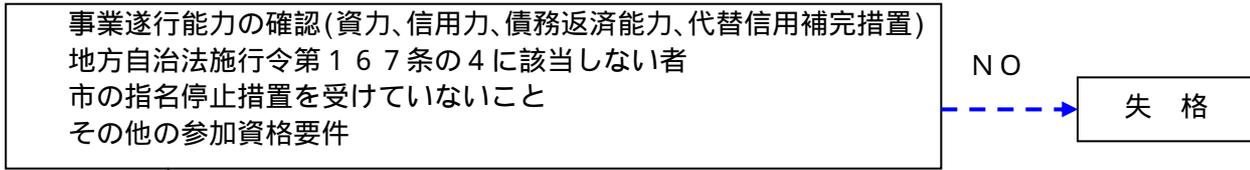
応募者の提案書等に記載された内容が、入札説明書等に定められた要件を満たしているか否か、また業務要求水準書によりサービス・機能の仕様・スペックを定めている事項においてその水準を満たしているか否かを確認する。満たしていないことが確認された場合は失格とする。

ウ 内容審査

審査会は、提案書等に記載された内容について評価し、得点化のうえ、得点の合計が最も高い提案を優秀提案として選定する。

審査の流れ

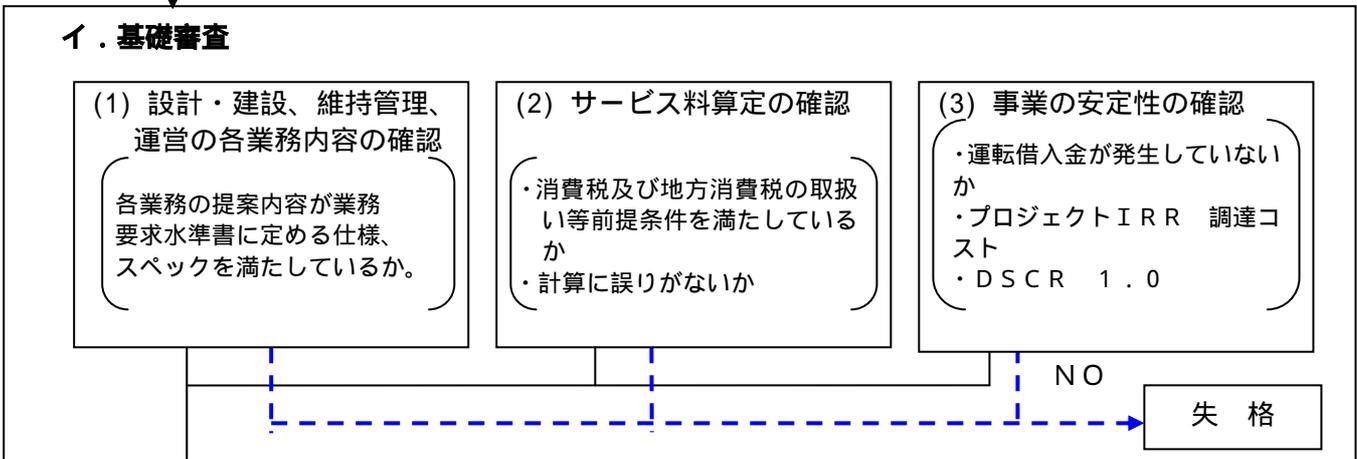
1. 参加資格審査



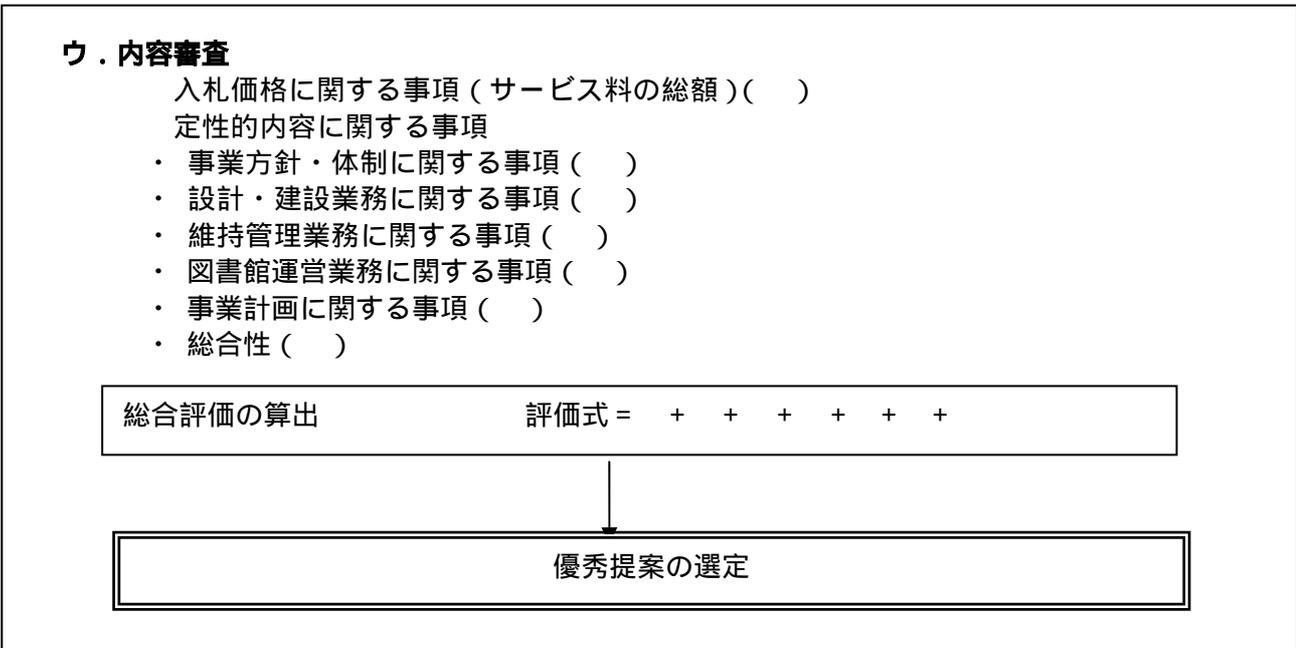
2. 提案審査



イ. 基礎審査



ウ. 内容審査



5 審査の経過

審査会は、本事業の実施方針及び入札説明資料の公表にあたり 3 回、提案審査において 2 回、審査会報告にあたり 1 回の計 6 回開催した。各回の開催日及び内容は次の通りである。

なお、提案審査にあたっては、定性的内容審査において、事前に提案書の内容を詳細に確認し、また、提案の具体化、詳細化を確認することで評価が分かれる内容については、直接、事業者にヒアリングを求めたうえで、評価、審議を行った。

回	開催日	内容
第 1 回	平成 16 年 6 月 27 日	実施方針（案）について （仮称）長崎市立図書館運営方針（案）について 要求水準書（案）について
第 2 回	平成 16 年 9 月 26 日	P F I 手法導入の際の V F M 算定結果について 特定事業の選定について 落札者決定基準（案）について
第 3 回	平成 16 年 10 月 17 日	入札説明資料等の公表について 落札者決定基準（案）について
第 4 回	平成 17 年 3 月 13 日	参加資格審査の結果について 提案審査 基礎審査 提案審査 内容審査（定性的内容に関する事項） ヒアリング審査（提案書説明及び質疑応答）
第 5 回	平成 17 年 3 月 27 日	提案審査 内容審査（定性的内容に関する事項） 提案審査 内容審査（入札価格に関する事項） 優秀提案の決定
第 6 回	平成 17 年 5 月 22 日	提案審査報告について

第3 事業者選定結果

1 参加資格審査

平成16年12月2～3日に、次の3グループから参加表明書及び参加資格確認申請書の提出があった。各グループの構成員及び協力企業は次に示すとおりであり、参加資格審査の結果、3グループいずれもが入札説明書に示した参加資格要件を満たしていることを確認した。

なお、審査にあたっては、評価の公平性を担保する意図から、3グループ名をAグループ、Bグループ、Cグループとし、構成企業名を伏せて行った。

グループ名	代表企業	プロジェクト マネジメント	設計企業	建設企業	維持管理企業	運営企業
三菱商事 グループ Aグループ	三菱商事(株)		(株)日建設計 (株)池田設計	(株)竹中工務店 (株)親和土建	(株)ふよう長崎 (株)ファルリス	(株)紀伊国屋書店 (長崎図書納入協同組合)
九州電力 グループ Bグループ	(株)九電工 (建設業務兼)	九州電力(株)	(株)久米設計 (西日本技術開発(株)) (株)三建設計総合事務所	前田建設工業(株) (株)菱熱 (大進建設(株)) (キハラ(株)) (金剛(株))	(株)日本管財 (九州林産(株))	(株)日販図書館サービス (株)アシスト (株)キューデ'ン'インフォム (九州通信ネットワーク(株)) (九電ビ'ジ'ネスソリューションズ(株)) (九電産業(株)) (株)竹村 (株)ホ'タル
鹿島TRC グループ Cグループ	鹿島建設(株) (建設業務兼)		(株)三菱地所設計 (株)安井建築設計事務所	(株)上滝	太平ビルサービス(株) 長崎菱興サービス(株)	(株)図書館流通センター (長崎図書納入協同組合) (富士通(株))

()内は協力企業(提案書等の提案時に決定している、本事業を実施する特別目的会社から直接業務を委託し、又は請負う企業等のうち、特別目的会社の設立時に出資を予定する企業等を構成員とし、出資を予定しない企業等を協力企業とした。)

2 提案審査

平成17年1月26日に、3グループから提案書等の提出があり、長崎市により提出された入札書類がすべて揃っていることを確認した後、入札書の開札を行った。

そして入札価格の確認後に、基礎審査、内容審査を行った。

(1) 入札価格の確認

各グループの入札価格は、次に示すとおりであり、すべての入札価格が、市の設定した予定価格の範囲内であった。

グループ名	入札価格(単位:円)
Aグループ	12,019,556,000
Bグループ	10,358,828,000
Cグループ	10,337,020,000

入札価格は、消費税及び地方消費税、物価変動を除いた額である。

(2) 基礎審査

各グループの提案書等について、要求水準書において定めるサービス及び機能の仕様及び性能に係る水準を満たしていることを確認した。

また、落札者決定基準に示す市が支払うサービス料算定の方法が適切であることを確認した。

(3) 内容審査

各グループの提案書等について、「入札価格に関する事項」と「定性的内容に関する事項」から、総合的に評価し得点化し、優秀提案を選定した。

内容審査の審査項目及び配点は、審査の基本方針に則り、長崎らしさを創出し、風格を増していくような施設、社会のニーズや将来世代も含めた市民のニーズに適切に対応できる施設、運営であること、また財政資金の効率的かつ効果的な使用が図られること、さらに本事業が確実に遂行され、かつ地域経済への貢献並びに地域の人材の活用が図られることを重視したものである。

ア 入札価格に関する事項

(ア) 配点及び得点化方法

最低価格を満点(100点)とし、以下の算出方法で得点を算出した。少数点第4位は四捨五入した。

(得点の算出方法)

$$100 \text{ 点} - \{(X - \text{最低価格}) / \text{予定価格}\} \times 200$$

X: 当該応募者の入札価格

(イ) 得点

開札の結果、各グループの得点は以下のとおりであった。

グループ名	得点
Aグループ	73.503
Bグループ	99.657
Cグループ	100.000

イ 定性的内容に関する事項

落札者決定基準に示す審査項目及び評価の視点に従い、提案書の内容について次のとおり評価を行った。

なお、公表にあたっては、評価の優劣についてよりの確に表し、審査の信頼性、透明性の確保に心がけるが、一方で事業者のノウハウに触れると思われる部分には考慮し、言及を避けている。

評価表

審査項目	評価の視点	評価
1. 事業方針・体制に関する事項		
(1) 事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立図書館の役割に対する明確な将来展望があるか。 ・ (仮称)長崎市立図書館(以下、本図書館という。)のあり方に説得力があるか。 ・ ビジネス街に立地する特性を活かした本図書館のあり方が示されているか。 ・ 設計・建設、維持管理、運営の各業務を一体的・長期的に実施するための方針が示されているか。 	<p>3グループともに公立図書館の役割に関し、基本理念を明確に示し具体性ある将来展望を展開している点を高く評価した。</p> <p>長崎市立図書館のあり方に関しては、Aグループの提案には、紙媒体と電子媒体との融合を図ることにより市の目指す図書館像の実現化に独自の視点があり、Cグループの提案にはコンセプトの実現のために各業務の取組方針が述べられており、それぞれ説得力がある点を評価した。特にAグループの提案は、ビジネス街に立地する特性を活かし、地元ビジネスの創業と発展を目標とした多角的な視点がありこの点も評価している。一方、Bグループの提案にはコンセプトは示されているものの、やや具体性に欠ける点があり評価を落とした。</p> <p>設計・建設、維持管理、運営の各業務を一体的、長期的に実施するうえでの方針については、Bグループがコンソーシアム組成自体を企業グループ主体ではかっており、その連携により一体的な業務実施を期待でき、その点を評価した。</p>
(2) 事業実施体制の構築能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業を統括する企業が明確になっているか。 ・ 本事業を統括する責任者が明確になっているか。 ・ 代表者、各構成員及び協力企業の役割分担が本事業の遂行に見合っているか。 	<p>Bグループの提案は、代表企業及びその社員が統括責任を果たすものと明確に位置付けており、また主要業務を細かく分類したうえで、各業務に適した専門業者が分担するものとしており、確実な業務が期待できた。</p> <p>Aグループの提案は、統括責任を代表企業及びその社員が負っている点ではBグループと同等に評価に値するが、図書館情報システム業務において、担当企業の提示がない点で業務遂行に不安を残した。</p> <p>またCグループの提案は維持管理・運営期間中の統括責任者が構成企業に属する者でなく、継続的な事業運営、SPCの経営の点で不安を残し評価を落とした。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の積極的な参画が図られているか。 	<p>Aグループ及びCグループは地元企業の積極的な参画が認められたが、Bグループは地元企業の参画が少なく評価を落とした。</p>
<p>2. 設計・建設業務に関する事項</p>		
(1)設計・建設業務に関する基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・業務を支障なく効率的に行うためにバランスのとれた提案となっているか。 	<p>Aグループ及びBグループは、品質保証に関する考え方を示すとともに、市民の声を設計に反映させることを提案しており評価に値した。</p> <p>Cグループの提案には品質保証に関する提案は示されているものの、その他目新しい提案がないことから若干評価を落とした。</p>
(2)設計・建設業務実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない業務体制となっているか。 ・業務の連携がスムーズに行える体制となっているか。 	<p>Bグループ及びAグループの提案は、業務体制と責任について明確になっており、また市及び他の企業との連携も図られている点、業務の統括責任者に経験者を配置した点が評価された。特にBグループの提案では、公共図書館館長経験者をアドバイザーとし、助言をうける点については特に評価された。</p> <p>なお、Cグループは、責任者、担当者に関する記述がない点で評価を落とした。</p>
(3)設計・建設業務計画	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない工程計画となっているか。 ・周囲に配慮した無理のない施工計画となっているか。 	<p>Aグループ及びBグループの提案は、工程計画に具体性があり、近隣、仮設消防庁舎に対して配慮が成されている点が評価された。</p> <p>なお、Cグループの提案は、仮設消防庁舎跡地に救護所メモリアルを建設する点で気象等の条件を考えると多少不安が残り、評価を落とした。</p>
(4)施設計画(概要と特徴)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の基本要件を反映した魅力的な提案となる工夫が見られるか。 	<p>Aグループの提案は、開架エリアは吹抜けと低い書架により開放感があり、利用しやすい空間となっている点、ライブラリアンコンシェルジュ、無線LANなどにより利用者の利便性を図っている点、無柱空間とフリーアクセスフロアの採用により将来の変化・発展に対応できる施設となっている点が評価された。</p> <p>Bグループの提案は、ライブラリーコンシェルジュなどにより利用者の利便性を図っている点、特殊情報プラザ、インフォメーションウォール等により情報発信を行い、市民の活力の源泉となっている点、開架書庫の増築スペース確保により将来的な資料の増加にも対応できる点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、クロスロードに四方からアクセスでき、各エリアがひと目でわかり、利用者の利便性向上に役立っている点が評価されたが、将来対応への工夫に具体的な提案がなく、評価を落とした。</p>

<p>(5)施設計画(建築計画)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者、自動車、ミニバイクのアプローチ動線が整理されているか。 ・ 敷地の緑化に積極的に取り組んでいるか。 ・ 駐車場、駐輪場の確保に積極的に取り組んでいるか。 ・ 利用者と職員の動線は整理されているか。 ・ 利用者の利便性を配慮した部屋の配置となっているか。 ・ セキュリティに関する配慮がなされているか。 	<p>Cグループの提案は、アプローチはフラットにアクセスできるようにレベルの処理がされており、緑化についても積極的に導入している点、駐車場には事務室を設け、防犯やトラブルに対応できるように配慮されている点、クロスロードは各エリア、動線を区分し、利用者の利便性向上と共に管理のしやすさにも役立っている点が評価されたが、一方で、敷地内に十分な空地が確保されていない点、各エリア、動線は明確に分離されているものの業務エリアが3階に配置されており、職員の作業性が多少悪くなることに懸念を残した。</p> <p>Bグループの提案は、敷地内に空地が確保されている点、駐車場は入口に詰所を設け、利用者の利便性を向上している点は評価されたが、メインアプローチのレベル差を階段により処理している点や、館内動線において、職員の児童図書事務室・業務エリア間の動線に対する利用者のメインアプローチ動線が利用者の利便性に配慮されていない点で若干評価を落とした。</p> <p>Aグループの提案は、アプローチはフラットにアクセスできるようにレベルの処理がされている点は評価されたが、緑化に関してはあまり積極的に導入していない点、館内の動線に関しては、全体的に管理エリアと利用者のエリアを明確に分離しているものの、ブックポストの本回収の動線と利用者の動線が利用者の利便性に配慮されておらず、細かい部分で配慮が足りない点、サービスカウンターが2階にあり、利用者の利便性が悪くなっている点、特に地下にBDSがあるが、作動したときに対応できるスタッフが少なく、本のセキュリティに関して問題が残る点で評価を落とした。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用目的に合ったインテリア計画であるか。 内装材料・工法は画一的でなく、機能・用途にあわせた工夫や適切な品質の選択がなされているか。 魅力的なインテリアとするための具体的な提案があるか。 開架エリアを開放的な空間とするための具体的な提案があるか。 県産材の積極的な活用が図られているか。 	<p>Aグループの提案は、開架エリアの中央を吹抜けとし、ライトウォールにより、明るく開放的な空間を作り出している点について特に評価された。</p> <p>Bグループの提案は、一般主題別図書コーナーが吹抜けにより開放的な空間となっている点、各エリアは天上高や窓の大きさにアクセントをつけ、画一的な空間にならないように工夫している点、県産材の活用について具体的である点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、クロスロードは明るく開放的な空間となっているが、その他のエリアについては特に工夫が見られない点で評価を落とした。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ (仮称)長崎市立図書館としてふさわしい外観であるか。 周辺の都市環境と調和し、地域の街並みと景観に配慮がなされているか。 長崎のイメージに合致しているか。 公共施設としてふさわしい外観となっているか。 ・ 外装材料はメンテナンス性及び長寿命化が図られているか。 	<p>Aグループの提案は、シンプルな斜め格子のファサードが、オフィス空間に溶け込ませることで長崎らしさを演出しており、また3階建てで高さを押さえていることにより、周辺に対する景観、日照に配慮している点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、積極的な敷地・屋上の緑化とカーテンウォールの緑化ルーバーは前面の広場を緑で包み込み、人々に安らぎの空間を提供する点で評価された。</p> <p>Bグループの提案は、建物の機能、階層別にテクスチャーを変え、様々な要素をデザインに取り入れている点は評価されたが、凹凸が多い形態はオフィス街にあっては多少違和感が感じられる点、建物高さが最も高く周辺に対する景観、日照の影響が最も大きい点で評価を落とした。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者のわかりやすいサイン計画であるか。 	<p>Bグループの提案は、マルチビジョンと大判印刷によるグラフィックサインは特に評価された。</p> <p>Aグループの提案は、メッシュスクリーンサインが具体的である点、Cグループの提案は、サインポールの設置が具体的である点は評価されたが、特徴が弱い点でそれぞれ評価を落とした。</p>
(6)施設計画(構造計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由度の高い空間を獲得するための合理的な構造計画となるよう工夫がみられるか。 ・ 部屋の機能に応じた荷重設定がなされているか。 	<p>Aグループの提案は、斜め格子梁の採用により、吹抜け大空間を作り出している点について、空間の開放性、フレキシビリティの点から特に評価された。</p> <p>Bグループの提案は、一般主題別コーナーを吹抜け空間とすることで空間の開放性、フレキシビリティを確保している点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、ハイブリッド構造によりロングスパンを実現している点が評価された。</p>
(7)施設計画(設備計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な室内環境を確保するための工夫がなされているか。 ・ 更新性、メンテナンス性を考慮した計画となっているか。 	<p>3グループの提案とも、床吹き出しによる空調方式や用途別に個別空調にするなど、良好な室内環境を確保する配慮がなされている点が評価されたが、その他特に目新しい提案はない点で若干評価を落としている。</p>

<p>(8) 施設計画（造り付け家具、備品計画）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の利便性向上及びインテリヤに寄与するための工夫がなされているか。 ・ 開架書架、閉架書架は収納効率及び運営効率の配慮がなされているか。 	<p>Aグループの提案は書架間通路を十分確保し、書架の高さを低く設定することにより利用者の利便性向上を図っている点、自動閉架書庫を導入し、運営効率をあげている点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、自動閉架書庫の他、利便性の高い自動化システムを導入し、運営効率を特にあげている点が評価された。</p> <p>Bグループの提案は、ブックポストの利用者の利便性を向上させている点、自動閉架書庫等の自動化システムを導入し、運営効率をあげている点が評価された。</p>
<p>(9) 環境に与える負荷低減に関する考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷の低減を配慮した施設計画となっているか。 	<p>Aグループの提案は、要求水準で求めているもののほかに自然換気、CO₂濃度による外気導入量制御による省エネルギー、人感センサーによる光熱水費の削減、熱源をプロパンガスとすることによるCO₂発生量削減などの提案があり評価された。</p> <p>Bグループの提案は、深夜電力利用の蓄熱式空調、全熱交換器、高温度差送水による省エネルギー、人感センサーによる光熱水費の削減などの提案があり評価された。</p> <p>Cグループの提案は、煙突効果を利用した換気、CO₂濃度による外気導入量制御による省エネルギー、人感センサーによる光熱水費の削減などの提案があり評価された。</p>
<p>(10) バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設全体としてバリアフリー、ユニバーサルデザインに関する工夫がなされているか。 	<p>Aグループの提案は、道路すべてにグラウンドレベルからアクセスできる、書架間を十分確保し車椅子の利便性を向上するなどの提案があり評価された。</p> <p>Cグループの提案は、道路すべてにグラウンドレベルからアクセスできる、点字付案内板、情報端末の設置などの提案があり評価された。</p> <p>Bグループの提案は、敷地北・東面に歩道を確認している点は評価されたが、メインアプローチのレベル差を階段により処理している点で評価を落とした。</p>

3. 維持管理業務に関する事項		
(1) 維持管理業務に関する基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務を支障なく効率的に行うためにバランスのとれた提案か。 ・ 事業完了後も視野に入れたLCC 最小化のための方策に優れた提案がみられるか。 	<p>3グループの提案とも、P D C A マネジメントサイクルやL C C の低減など、業務を効率的に行うための提案があり評価されたが、事業終了後を見据えた提案がない点で評価を落とした。</p>
(2) 維持管理業務実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の分担及び責任の所在が明確な維持管理体制となっているか。 ・ 各業務毎の人員体制が明確になっており、かつ、適正な人員数か。 ・ 有資格者を計画に沿って適切に配置しているか。 	<p>Aグループの提案は、業務の指示系統、責任の所在が明確になっており、市との連絡調整を維持管理責任者が直接行うのでスムーズに行える点が評価された。また、各業務責任者は一部兼務しているが、有資格者を適切に配置されている点も評価された。</p> <p>Bグループ及びCグループの提案は市との連絡調整を維持管理責任者が直接行なう体制となっていない点で評価を落とし、さらにBグループは比較的経験の少ない有資格者を配置している点で評価を下げた。</p>
(3) 施設保守管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部位、設備毎の基本仕様（点検、保守内容）が具体的で適切であるか。 	<p>Aグループ及びBグループの提案は、各業務とも全体的に適正な業務内容と年間スケジュールとなっている点、C A F Mによる管理は将来にわたり維持管理をスムーズに進めるために有効な方法である点で評価された。</p> <p>Cグループの提案は、C A F Mの提案はあるが、具体的にどのように維持管理業務に反映させるかの記述がない点で評価を落とした。</p>
(4) 清掃業務・環境衛生管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常清掃・定期清掃、内部清掃・外構清掃に分かれており、仕様が具体的で適切であるか。 ・ 空気環境測定、照度測定、害虫駆除等の仕様が具体的で適切であるか。 	<p>Aグループ及びCグループの提案は、業務内容が明確に示されている点で評価された。</p> <p>Bグループの提案は、業務内容は明確であるものの、スタッフが少ない点で評価を落とした。</p>

<p>(5) 駐車場管理業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者以外の目的外利用を抑制する具体的な仕様の提案はあるか。 ・ 駐車施設の安全を確保するための具体的な仕様の提案はあるか。 ・ 路上待ちの自動車の対策がなされているか。 	<p>Aグループの提案は、監視カメラ、警備員の巡回により目的外利用の抑制が図られ、利用者の安全性が確保されている点、さらに混雑時にはスタッフ増員等により対応がなされる点が評価された。</p> <p>Bグループの提案は、詰所の設置、サイン表示により目的外利用の抑制が図られている点、監視カメラ、パトライト等により利用者の安全性が確保されている点、混雑時には満空表示、警備員の車両誘導により対応がなされる点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、口頭による注意やステッカー等により目的外利用の抑制が図られている点、駐車場管理室の設置及び出庫ブザー等により利用者の安全性が確保されている点、混雑時には満空表示、人員による対応により対応がなされる点が評価された。</p>
<p>(6) 警備業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全かつ快適な状態でのサービス提供が可能となる業務内容、実施方法となっているか。 ・ 緊急時等の通報に速やかに対応できる体制となっているか。 	<p>Bグループの提案は平日、休日共警備員が常駐し、業務の内容も明確である点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、業務の内容は明確であるが、駐車場兼務の責任者が常駐するのみである点が評価を落とした。</p> <p>Aグループの提案は、緊急時の対応は示されているが、通常業務の内容が明確でない点で評価を落とした。</p>

4 . 図書館運営業務に関する事項		
<p>(1) 図書館運営業務に関する基本的な考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報資料の収集、整理・保存・提供といった基本をしっかりと踏まえ、的確・明確なサービス方針が示されているか。 ・ (仮称)長崎市立図書館運営方針に沿いつつ、効率性・実行性・創造性が期待される提案となっているか。 	<p>Aグループの提案は、書店経営ノウハウの活用、電子媒体の利用による電子情報の蓄積・提供等、サービス方針が明確に示されている点、都市型図書館の位置づけや電子媒体によるサービスの向上、市民の図書館運営への参画等、独自の視点を提示している点で評価された。</p> <p>Cグループの提案は、実績に基づく確実な運営により市民生活における多様な場を提供していく方針が明確に示されている点が評価された。</p> <p>Bグループの提案は、図書館理念的に基づき、効率性、実行性、創造性の視点から方針が明確に示されている点が評価された。しかし、実行性の観点からの独自の視点がやや薄い点で評価を落とした。</p>
<p>(2) 運営業務実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館内のコミュニケーション（SPC 内での命令・連絡・調整等、市職員との調整等）の管理が迅速かつ適切に行なわれる体制となっているか。 ・ レファレンスサービス等、高い専門性を必要とするサービスに、要求水準を上回る有資格者・経験者を配置するなど、図書館サービス向上を考慮した配置となっているか。 	<p>Cグループの提案は、公立図書館実績経験者の人名が明記され、また能力のある人が適切に配置されている点が評価された。</p> <p>Bグループの提案は、IT 技術の他、社会ニーズに対応可能な有資格・経験スタッフ配置が明確に示されており、図書館サービス向上に考慮している点が評価されたが、経験が必要な相互貸借業務に新卒者を当てる点で評価を落とした。</p> <p>Aグループの提案は、IT に関する有資格職員の配置が明確に示されており、図書館サービス向上に考慮している点が評価された。また、業務責任者の兼任業務による業務間の連携強化は評価されたが、一部責任者の兼任分野に加重な分担となっており、実行性に疑問が残る点、さらに、公民館等図書室業務（搬送業務以外）のスタッフ体制が不明確で、業務遂行の責任意識を確認できない点で評価を下げた。</p>

<p>(3) 開館準備業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開館以降までを見通しながら、開館準備業務を確実に実施するための工夫がみられるか。 ・開館直後の多数の利用者対応を考慮した工夫がみられるか。 	<p>Cグループの提案は、情報資料の確実な調達が期待できる点、学校等との連携による事前利用者登録の提案について工夫がみられる点、さらに経験者(社員、スタッフ)を臨時に集中投入することが示されている点が評価された。</p> <p>Aグループの提案は、学校等ガイダンスによる事前登録と利用促進の提案について工夫がみられる点、開館後数ヶ月は、応援要員を確保することが示されている点が評価された。</p> <p>Bグループの提案は、早期に総括責任者の他、部門責任者を配属しており、確実な実施が期待できる点、公民館との調整期間を設定、早期のシステム整備計画作成についての視点があり、当該業務の重要性に関する認識が高い点が評価された。しかし開館直後の多数の利用者への人的対策についての配慮がやや薄い点で評価を落とした。</p>
<p>(4) 運営スタッフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質を向上させるための有能な人材の確保及び配置の提案がなされているか。 ・全事業期間に亘って提案のサービス水準を維持していくために、有能な人材を継続的に確保するための方策が提案されているか。 ・業務の内容・量に応じ適正なスタッフの採用がなされているか。 ・能力向上につながるための効果的かつ具体的なスタッフ教育の方法が示されているか。 ・ピーク時においても円滑な運営が確保され、かつ人的資源の有効活用が図られた配置となっているか。 	<p>Cグループの提案は、市内大学との連携により司書課程修了者の積極的採用による人材の確保が評価された。また有能な人材を継続的に確保するために福利厚生 の点について工夫する点、スタッフ教育方法として具体的な方策が評価された。さらにピーク時における計画増員について示され、計画性の点で評価された。</p> <p>Aグループ及びBグループの提案も、市内大学との連携により司書課程修了者の積極的採用による人材の確保について評価された他、有能な人材の継続的確保、スタッフの能力向上策の提案に関し、その具体性、創意工夫が評価されたが、Aグループの提案はピーク時に臨時スタッフを増員する点で業務がこなせるのか疑問が残り、またBグループの提案もスタッフ教育の点で、日常業務や雇用面からの方策に欠ける点で評価を落とした。</p>
<p>(5) プロモーション業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本図書館の機能やサービスに関する情報を適切な時期に効果的な媒体を用いて伝え、市民の利用の促進につながる効果的な提案となっているか。 	<p>Aグループ及びBグループの提案は、多彩かつ具体的な点で評価されたが、Cグループの提案は、具体性に薄く、効果に対しやや説得力がない点で評価を落とした。</p>

(6) サービス的業務	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の時代ニーズや利用者ニーズを的確に捉え、その変化に柔軟に対応するための具体的・技術的な方策がとられているか。 ・多様な利用者ニーズを把握するための工夫が提案されているか。 ・把握した結果が利用者へのサービス向上につながるような工夫がみられるか。 	<p>Cグループの提案は、地域ニーズの把握に努める点、またフロアワークを重視した日常サービスからのニーズ把握の視点が評価された。さらに把握したニーズのデータから図書構成に反映する点に効果が期待でき評価につながった。</p> <p>Aグループの提案は、時代ニーズに関しては、書店データを活用等、図書館外における購入・利用実態を通して把握する方法が評価され、また各主題の見直しやフロアのレイアウトにそのニーズを反映することが評価された。しかし、図書館利用者のニーズ把握については特徴的な提案が見られず評価を落とした。</p> <p>Bグループの提案は、時代ニーズに関してはAグループと同様、図書館外における利用実態等を通して把握する方法が評価された。しかし図書館利用者ニーズの把握方法、ニーズの反映の仕方に特徴が見受けられず評価を落とした。</p>
	<p><フロア業務について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービス向上に工夫がみられるか。 ・実施方法に妥当性があるか。 	<p>Bグループの提案は、レファレンス担当者の館内巡回により利用者のサービス向上を図ろうとする点が評価され、Cグループの提案は、総合インフォメーションとの機能分担によるサービス向上について評価された。またこの2提案ともOPAC等の機器説明をスタッフが対応する点で実施に妥当性がある点が評価された。</p> <p>Aグループの提案は、総合案内カウンターとの機能連携によるサービス向上について評価されたが、OPAC等の機器説明の対応において不安が残り評価を落とした。</p>
	<p><トラブル対応について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルの未然の防止策と発生時の対応策が適切になされる提案であるか。 ・トラブルに対する再発の防止策や説明責任が適切になされる提案であるか。 	<p>Aグループの提案は、トラブル情報の共有化、データベース化、マニュアル化の具体的な方策が示されており、適切な対応が期待できる点で評価された。また、大きなトラブルについては利用者に公開する等、説明責任に対する認識がある点が評価につながった。</p> <p>Bグループの提案は、具体的なマニュアルが示され、トラブルに対する高い経験による適切な対応が期待できる点、原因究明と定例会議での報告による再発防止への高い意識がある点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、図書館で特有の資料トラブル等に対し考慮されている点、トラブルの総括責任者報告、対応結果の検証、改善点のスタッフ周知による再発防止への高い意識が評価された。</p>

	<p><カウンターサービス・整理業務について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への貸出・返却、予約・リクエスト等のサービスを向上させる工夫がみられるか。 ・実施方法に妥当性があるか。 	<p>3提案ともにICチップ、自動貸出機、自動化書庫によるサービス向上・効率性の工夫について評価された。</p> <p>さらに、特にCグループの提案は、利便性の高い自動化システムの提案となっており、Bグループの提案は、返却の自動化により業務の効率性が期待できる点が評価された。</p> <p>Aグループの提案は、返却ポストの回収等の運用について利用者サービス向上への配慮が少ない点で評価を落とした。</p>
	<p><レファレンス及びレフェラルサービス業務について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービス向上に工夫がみられるか。 ・実施方法に妥当性があるか。 ・本図書館の信頼度を高めることができるよう工夫した提案となっているか。 	<p>Cグループの提案は、児童向け検索用キーワードデータベースの活用の点で児童のレファレンスサービスの工夫があり児童学習において有効である点、また、回答を翌日までに行う体制が組めており、また回答又は経過を翌日までに行うという点が現実的であり評価された。</p> <p>Aグループの提案は、ネットからの館外でのサービス向上に工夫があり、これからの高齢者世代等の館外サービスに有効である点が評価された。しかし、スタッフ体制がやや不明確であることで評価を下げた。</p> <p>Bグループの提案は、スタッフ能力を重視し、体制による多様なニーズ対応が示されているが、サービスの工夫による特徴的な提案がない点、即日回答を原則におくことが現実的ではない点で評価を落とした。</p>
	<p><生涯学習支援業務について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童サービスに関し、児童に読書の楽しさや大切さを伝える視点からの工夫がみられるか。 ・青少年サービスに関し、この年齢層特有の趣向や活字離れ対策の視点からの工夫がみられるか。 ・高齢者サービスに関し、図書館利用に配慮するとともに、潜在的な学習意欲を促し、知識を社会に還元させる視点からの工夫がみられるか。 	<p>Bグループの提案は、高い経験・技術スタッフ体制と具体性あるサービスが示している点、活字離れ対策として学校との連携の視点がある点が評価された。</p> <p>Aグループ及びCグループの提案は具体性、実現性の点で不安がのこり評価を下げた。</p> <p>その他、高齢者サービスに最も必要なのは、対面朗読など視力の弱った部分をサポートするサービスであるが、その視点が欠けている点では、3提案とも共通して評価を落とした。</p>

	<p>< 社会人サービス業務について ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人サービスに関し、図書館の実用性を高め、生活やビジネス等に役立つことに配慮した工夫がみられるか。 ・ 実施方法に妥当性があるか。 	<p>3 提案ともに、商用データ導入や関係機関との連携によるサービス提供が提案されている点が、ビジネスニーズに応えるための工夫があると評価された。</p> <p>さらに、Aグループの提案は、具体的なニーズをふまえた情報への対応は、社会人サービスにおいて図書館の実用性を高めるものと評価された。特に、専門情報に特化した人材を配置するなどの実施方法も専門性を重視した有効な方法と評価された。</p> <p>Bグループの提案は、「ビジネス支援室」設置の提案は特徴的であり、この配慮は評価されたが、具体的な活用策が示されておらず、実施方法については具体性に欠け、評価を落とした。</p> <p>Cグループの提案は、「携帯電話使用室」の設置が提案されているが、ビジネスマンではなく、中学・高校生の利用の場になる可能性が懸念され、妥当性に欠けるものとして評価を下げた。</p>
	<p>< 図書館利用に障害のある市民への対応サービスについて ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者の立場に立ち、きめ細かなサービスの提供に配慮された具体的な提案がなされているか。 ・ 実施方法に妥当性があるか。 	<p>Cグループの提案は、障害者に重要な、まず図書館にある本を知らせるというブックリストの作成の視点があり評価された。</p> <p>Aグループ及びBグループの提案は、機器や人的対応による工夫が示されているが、特徴的な点に欠けるため評価を落とした。</p>
<p>(7) 情報資料整備業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立図書館としての役割や時代ニーズ、利用者ニーズをどのように捉え収集に反映するかに関し、独自の考え方をもっているか。 ・ 電子書籍・資料、デジタル化資料等の新たな情報媒体に関する提案がなされているか。 ・ 郷土資料の収集、保存など市の文化を支援する提案がなされているか。 	<p>3 提案ともに電子資料、デジタルアーカイブ資料、データベース等の多様な媒体の収集について示されている点が評価された。</p> <p>さらに、Aグループの提案は、紙媒体と電子媒体を関連付けた収集を基本に、独自の先見性のある具体的かつ戦略的な蔵書計画が評価され、また地域情報のデジタル化資料の作成として独自の方法が示された点も評価につながった。</p> <p>Cグループの提案は、収集・蔵書方針が独自の視点から明確に示されており、確実性・信頼性について評価された。また市民への取材による記録・電子媒体への保存について独自の方法が示されており評価された。</p> <p>Bグループの提案は、収集・蔵書方針について独自の視点がなく、具体性にやや欠ける点、郷土資料のデジタル化について示されているが、具体性にやや欠ける点で評価を落とした。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速な処理が可能な提案となっているか。 ・逐次刊行物やリクエスト資料について適正かつ迅速に収集できる提案がなされているか。 	<p>Aグループの提案は、逐次刊行物やリクエスト資料の収集において運営企業の在庫を活用するなど多面的な収集源により迅速な対応が期待できる点が評価された。しかし情報資料整備について選書に対する利用者ニーズの反映、納品から装備、配架までの一連業務が円滑な体制になっているか疑問が残り評価を若干落とした。</p> <p>Bグループの提案は、選定に対する考え方をもとに手順が示された点で評価されたが、逐次刊行物やリクエスト資料の収集は種別毎に手順が具体的に示されているものの、一般的で特徴がない点で評価を若干落とした。</p> <p>Cグループの提案は、選定から装備までの手順・方法について具体的に示され、ノウハウの高さが評価されたが、逐次刊行物やリクエスト資料の収集は具体的な方法が示されていないため評価を若干落とした。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報資料の提供と保存のあり方を適切に踏まえた管理についての提案がなされているか。 ・不用図書を再利用する方法がなされているか。 	<p>Bグループの提案は、業務に対する考え方のもと適切な方法が示されており、妥当性がある点で評価された。不用図書の再利用の方法として関連施設への譲与が示され、公民館図書室への配本における市の実態に即した視点が評価された。</p> <p>Cグループの提案は、蔵書点検について適切な日数の期間を設けており、蔵書管理の重要性について認識が高い点で評価されたが、不用図書のリサイクルに対する認識はあるものの、一般的で特徴がない点で評価につながらなかった。</p> <p>Aグループの提案は、日常の配架や整理等の書架管理業務について認識が低く、また本の修理やレイアウトの変更を行う必要性を考えると、特別整理休館日を設けない点は現実性の点で疑問が残り、評価を下げた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書点検、書架整備について先駆的技術の導入等の具体的方法により効果的、効率的な提案がなされているか。 	<p>3提案ともに、ICチップ、自動貸出機、自動化書庫によるサービス向上・効率性の工夫について評価された。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・配架における主題設定について利用者の属性や学習との関連性に配慮し、読書や学習の意欲を高めるための工夫のある提案がなされているか。 	<p>Aグループの提案は、児童図書エリアレイアウトが一部適切でないと思われる点、Bグループの提案はレファレンスサービスと主題別図書の一體的運用において相互の機能性（ブラウジングとピンポイント）に弊害の不安がある点、Cグループの提案は、ヤングアダルトのコーナ配置に疑問が残り若干評価を落とした。</p>

<p>(8) 公民館等図書室業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館等図書室との連携による市内一円の図書サービス網をきめ細かくかつ効率的な巡回配送するための工夫のある提案となっているか。 	<p>Bグループの提案は、きめ細かな巡回配送について示されており、高く評価された。</p> <p>Cグループ及びAグループの提案は、現行以上の配本サービスの向上がみられず評価につながらなかった。</p>
<p>(9) 図書館情報システム業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館等図書室職員が容易に操作できるシステムとなっているか。 ・ 業務用システムと利用者用システムの明確な区分がなされているか。 ・ レスpons性で優れたシステムの提案がなされているか。 ・ web、LANによる情報提供等に工夫のあるシステムの提案がなされているか。 ・ サービス的業務、情報資料整備業務との連携に配慮された提案となっているか。 	<p>Aグループの提案は、操作性に関し、機能面での具体的な配慮がなされている点、負荷分散型でレスpons性を考慮している点、フリーアドレスの工夫があり、利用者の利便性の向上が期待できる点が評価された。しかし業務ネットワーク中に来館者用無線端末の構成やOPACにweb機能があるなど業務系と利用者用システムの分離がやや不明確である点、業務系システムが一般的で特徴が不足している点で評価を若干落とした。</p> <p>Bグループの提案は、操作性に関し、機能面での具体的な配慮がなされている点、業務用と利用者用システムの分離が明確になっている点、各業務端末へのデータ送信の安定化対策が図られレスpons性に配慮している点、さらに公民館等図書室まで光高速LANの付設により、デジタル社会に対応している点が評価された。しかし、業務端末の具体性が不足している点で評価を若干落とした。</p> <p>Cグループの提案は、業務用と利用者用システムの分離が明確であり、業務系システムの機能が詳細に示され、具体性がある点で評価された。しかし、システム操作に不慣れな図書室職員に対する配慮や公民館等図書室とのレスpons性への配慮が薄い点で若干評価を下げた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ対策及び個人情報保護に対し具体的な運用システムとなっているか。 ・図書館休館日にも配慮し、公民館等図書室の館外のシステム及び機器の保守体制ができているか。 ・データのバックアップについて具体的な工夫がみられるか。 	<p>Bグループの提案は、技術的・人的脅威からのセキュリティ対策、職員研修や独自方針の制定による個人情報保護が適正に配慮されている点、24時間365日の障害受付や障害発生時の速やかな対応について具体的に示されている点、また外部媒体への保存、サーバー用ディスクの冗長化などバックアップが適切になされている点が評価された。</p> <p>Aグループの提案は、セグメントの分割、ファイアウォール、統合ウイルス対策システムの導入によるセキュリティ、IDパスワード入力によるサーバーアクセス等個人情報保護に適正に配慮されており、また外部媒体への保存、サーバへの複数ディスク分散などバックアップが適切になされている点が評価された。しかし、休館日対応、公民館等図書室のシステム及び機器の保守体制は一般的で特徴に欠けることで若干評価を下げた。</p> <p>Cグループの提案は、業務系の多段構成やウイルス監視サーバーによるセキュリティ、IDパスワード入力によるサーバーアクセス等個人情報保護に適正に配慮されている点、外部媒体への保存、外部接続ルータ・ファイアウォールの二重化等バックアップが適切になされている点が評価された。しかし、Aグループと同様、休館日対応、公民館等図書室のシステム及び機器の保守体制は一般的で特徴に欠けることで若干評価を落とした。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の見通しに基づき、技術に関する新規性と確実性のバランスのとれた提案となっているか。 	<p>3提案ともに更新に対する柔軟な対応が期待できる点が評価された。しかし、Aグループの提案は高度化に優れる反面、利用者の処理能力への配慮が薄い点で、またBグループ及びCグループの提案は、技術革新に関し、図書館独自の視点からの具体性がない点で評価を若干落とした。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者サービスの向上に貢献する優れた提案となっているか。 	<p>3提案とも実績、経験に裏づけされており特に問題ない</p>

5 . 事業計画に関する事項

<p>(1) 資金調達の確実性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己資金を相応に準備した資金計画となっているか。 ・ 事業に関して金融機関等から融資の確約又は関心表明を得ているか。 	<p>資金調達においては、3 提案とも、出資比率は低く抑えているものの、代表企業及び構成員各社の拠出による劣後ローン及び劣後ローン枠を設定することで、確実な自己資金調達となっていると評価された。</p> <p>また、どのグループの提案も、代表企業及び構成員は本事業に対し確実に資金供与しており、事業の遂行において責任をもった関与を約束しているものと評価された。</p> <p>さらに、外部借入においては、どのグループ提案も金融機関からの確約書及び関心表明を得ており、事業開始時に円滑に資金調達が図れるよう担保しており評価された。</p>
<p>(2) 事業計画の確実性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収支の根拠が明確かつ妥当か。 ・ 借入金償還計画に変則的要素はないか。 	<p>3 提案とも、収入及び支出の額は、各業務の見積額に基づく明確なものであり、また金融機関からは固定金利での借入計画であるとともに、返済計画では各年度の返済額をほぼ一定の額にするなど、事業計画の不確定要素、変動要素を小さく抑えている。</p> <p>このように、3 提案ともに、確実に事業が遂行されることを期待できる事業計画と評価された。</p>

<p>(3) リスク管理の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予期せぬ事態による運転資金発生時の対応がなされているか。 ・ コンソーシアム内において適切なリスク分担がなされているか。 ・ 各リスクについて具体的かつ適切なリスク管理方針が提案されているか。 ・ 事業者が負担するリスクについて、顕在化した時の対応策が検討されているか。 	<p>リスクが発生した場合は資金的な手当が必要となるが、どの提案もそうした予期せぬ事態に備え、先ず資金調達の段階で予備費を含めた調達を行い内部留保としている。さらに全事業期間にわたり配当せず全額内部留保に積み立てる、あるいは配当を一定額控え内部留保に回すというかたちで積立額を厚くするとともに、その積立でも不足する事態が生じた場合は、劣後ローンの返済の停止、劣後ローン枠の設定など、重層的な対応策を提案している。</p> <p>このように、3提案とともに、予期せぬ事態により運転資金が発生した場合の具体的な対応策を複数提案しており、評価された。</p> <p>また、Bグループの提案及びCグループの提案は、事業者が負担すべきリスクごとに、当該リスクを最も適切にコントロールできる構成員及び協力企業に移転・分散し、リスク管理主体を明確にした上で発生回避、被害抑制を図り、さらに、万が一にリスクが顕在化した場合は、先に示したSPC自体の内部留保による備え、当該リスクの管理主体である構成員あるいは協力企業とSPCとの委託契約条件の工夫により、SPCには個々のリスクが波及しないような仕組みを示している。このように、両提案は、リスク管理の方針が明確かつ適切であり評価された。</p> <p>なお、Aグループの提案は、リスク管理する主体や管理方針、またリスクが顕在化した場合の対応策の具体性に欠け、この点で評価を落とした。</p>
<p>(4) 軽食コーナー事業計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全事業期間に亘り安定的に継続できるか。 	<p>3提案とともに、開業当初から当期損益が黒字化し、安定的、継続的な運営が可能となる計画となっている。</p> <p>どの提案も、軽食コーナーの需要量を図書館利用者数の一定程度と見込み、提案のメニュー価格帯に沿ったコスト及び収益を想定している。</p> <p>需要量の想定は、長崎市内の公共施設に付帯する喫茶・レストランの実績からみて妥当であり、この点から判断し軽食コーナーの事業計画も妥当と評価された。</p>

6 . 総合性

	<p>・各提案書に提案される内容の整合がとれ、相乗効果を発揮し、社会変化に対応し将来世代を通じて市民が利用しやすい魅力的な図書館が提案されているか。</p>	<p>3提案において、それぞれの全提案を通して、斬新性と実行性、まとまりの点から特徴づけ評価された。</p> <p>Aグループの提案は、民間のノウハウや多様な媒体、先端的技術を積極的に導入し、多様化するニーズに対応しようとする提案で、斬新で意欲的な取り組みであり、将来性が期待された。設計・建設にも、建築面積を多くとり、階数を3階と抑え、作業のしやすさ、館内の見易さ、開放感などに配慮され、またフリーアクセスを採用するなど、将来に向けての高い機能性が感じられた。全体として、費用は高くても良いものをつくろうという姿勢が感じられ、個別には斬新で魅力的な提案ではあるが、他方、実行性にやや疑問が残り、リスク対応にもみられるように、全提案を通してのまとまりに弱く、グループ内での調整が十分になされていなかったように感じられた。</p> <p>Cグループは、「知の開放」や「知の集積」をキャッチフレーズに、新たな図書館サービスに配慮しつつ、公立図書館としての役割やサービスにも認識を持ち、公共図書館経験者の配置など、高い経験・ノウハウが期待でき、実行可能性に説得力がある提案であった。設計・建設にも、施設中央に吹抜空間をつくり、公共図書館としての機能性と利用者の利便性への配慮が感じられる。全体として、斬新性、まとまりの点で、それぞれAグループ、Bグループに比べやや弱いですが、公共図書館の整備・運営にあたり、実行性、信頼性において高く期待できる提案であった。</p> <p>Bグループの提案は、公共図書館としての役割を踏まえ、公共性についての認識は高く、市と協力してやっていく姿勢がみられ、事業に対する市の意向の反映が期待できる提案であったが、他方で独自性のある提案が少なく、従来型の図書館にとどまってしまう、やや特徴に薄いように感じられた。設計・建設にも、建築面積を小さく抑えてあるため、階数は5階となっているため、ワンフロア - は狭く、開放感や機能性はAグループとCグループとの中間的な印象であった。全体として、中核グループのリーダーシップが感じられ、全提案を通してのまとまりでは最も優れているように感じたが、斬新性、実行性の点で、他グループに比べ、やや弱い提案であった。</p>
--	--	--

3 優秀提案の選定

審査会における審査結果は、別紙のとおりであり、総合審査の得点の最も高いCグループ(鹿島TRCグループ)を最優秀提案として選定した。

4 審査会総評

公共施設等の整備に当たり、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行うPFI手法は、全国の自治体において積極的に導入が図られている。

本事業は、長崎市においては初のPFI案件であり、より質の高い図書館サービスの提供を、市財政支出の削減及び平準化を図りつつ実現することを期待されたものである。

本事業に応募いただいた3グループの提案を拝見したところ、いずれの提案も積極的かつ意欲的なものであったことに、本審査会としても感謝している。

各提案とも、事業期間を通じた施設整備、維持管理及び運営に係る市負担総額について、当初の想定を上回る削減が見込めるとともに、施設の設計・建設、維持管理及び運営面において、各グループの創意工夫が凝らされており、より質の高い図書館サービスの提供が期待できるなど、市が従来型で実施する場合に比べ、効率的、効果的なものと考えられる。

本審査会において落札者決定基準に基づき慎重に審査したところ、個別項目の評価では、「設計・建設業務に関する事項」及び「維持管理業務に関する事項」は、3グループともわずかな差であり、「事業方針・体制に関する事項」、「図書館運営業務に関する事項」、「事業計画に関する事項」を含め、合計50項目に及ぶ定性的内容に関する事項についての3グループの評価点合計における最高点と最低点の差はわずか6.075に過ぎず、どのグループの提案も甲乙つけがたく高得点であった。

以上の結果、僅差の開きしかなかった項目別の「定性的内容に関する事項」評価の結果より、得点に26.497の開きが生じた「入札価格に関する事項」が大きく影響する結果となった。

最終的には、客観性の高い審査結果得点を基準に、価格面と内容面でバランスがとれ、施設の機能と図書館サービスの相乗性があり、またこれまで図書館サービスのノウハウ蓄積がない長崎市に対し、公共図書館の整備・運営にあたり、実行性、信頼性が高く、確実に高水準なサービス提供を果たしてくれることを期待できる提案内容のCグループ(鹿島TRCグループ)の提案を本審査会として最も高く評価し、総合第1位に選定した。

以上